

対象年度		令和 6年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート													
事務事業名		友好都市交流事業						予算事業名		友好都市交流事業費							
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令								
				10	05	03	2005	経常経費									
総合計画体系		未来を担う子どもと 生き生きとした市民を育む地域を目指そう						事業の区分		主要事業							
		多様性を尊重し合える社会づくり															
		地域間交流の促進						担当課係等		生涯学習課							
事業期間		継続 (年度～ 年度)										生涯学習係					
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】									
結城市の子どもたちが結城市の歴史や文化を知り、さらに福井市との関わりや福井市の歴史や文化等を学び、福井市の子どもたちとの相互交流を図ることによって、様々な体験、交流活動を通し、積極性や協調性を養い、結城市の将来を担うリーダーを育成する。								結城市と福井市の歴史的な繋がりを縁として、平成14年4月に友好都市締結が行われ、その年の7月から小学生相互交流が始まった。また、実施主体が福井市では子ども会ということで、平成22年度から担当課が指導課から生涯学習課へ移管された。									
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】									
・友好都市の相互訪問を通し、結城市と福井市の歴史的な関わりを学ぶ。 ・藍染や機織りなど様々な体験をすることで、互いの市の歴史や文化に触れる。 ・共同作業、宿泊をともにすることにより、子ども同士の交流を深める。 ・事前、事後学習会及び報告書の作成や事業報告会を行い、事業の効果的な実施と広報を図る。 ・子ども親善大使任命書を交付し、親善大使としての意識づけを行う。								市内小学6年生									
								【事業をとりまく環境の変化】									
								交通手段の発達やインターネットの普及により、いつでも、どこからでも、様々な交流が可能な時代を迎え、今後は、交流を育む受け入れ体制の充実や、情報発信の工夫など多様な施策の展開が求められている。									
【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】									
結城市福井市の子ども親善大使各8人の相互訪問による交流 事前・事後学習会の実施 事業報告会の開催				結城市福井市の子ども親善大使各8人の相互訪問による交流 事前・事後学習会の実施 事業報告会の開催				結城市福井市の子ども親善大使各8人の相互訪問による交流 事前・事後学習会の実施 事業報告会の開催									

■事業費

		R04年度	R05年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	0	0			
	一般財源	621	573			
歳入計（千円）		621	573			
歳出内訳	節（番号＋名称）	金額（千円）	金額（千円）			
	08 旅費	98	122			
	10 需用費	10	10			
	18 負担金補助及び交付金	513	441			
歳出計（千円）（A）		621	573			
伸び率（％）			-7.72			
備考						

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	相互交流・研修等実施回数	回	目標	9.00	6.00	6.00
	事前・事後研修含		実績	6.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	学校教育だけでは学習することができない、両市の歴史的な背景や文化財等について学ぶことができる機会となっている。また、様々な人とかかわったり、体験活動をしったりするなど、日常生活では味わえないことができる点が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	福井市では、実施主体が子ども会であるが、結城市では参加者が子ども会に限られていないため、行政が実施主体となっている。
	手段の妥当性	A 妥当である	福井市と友好都市となっている歴史的なかわりを学ぶなかで、両市の伝統工芸や食文化について知ることは有益なことである。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	生涯学習係全員が対応にあたり、宿泊指導をしたり、日程や施設見学の決定から引率など多くの部分を担っている。市子連と調整を行い、役割の分担等をより詳細に決めることで人員効率の改善に努めることも可能である。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	市内小学6年生の在籍数447人に対し、応募数15人あり、応募時に提出された作文により8人を選考したが、参加者が小人数に限られてしまう。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	事業後は、子ども同士だけでなく、市子連役員も含めて福井市との交流が広がっている。また、作品展での活動報告においては、来訪者に事業の説明をする経験などを通して、人前でも自信をもって発表できる力を身に付けている。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	令和2年、3年は新型コロナウイルス感染症のため交流事業が中止になったが、令和4年度からは計画どおり進んでいる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
参加者の様子や感想を見ると、子どもたちにとってこの事業が効果的であったと評価できる。事業が市民に広く浸透していないと感じられるので、子ども親善大使として活動してきたことを多くの市民に伝えられるように、周知方法を改善していかなければならない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
より多くの小学生が参加できるような交流方法を市子連とも、調整・検討していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 参加した小学生が交流の中で感じたことを、それぞれの小学校で発表する機会を設けるなど、交流の成果を、より多くの人と共有できる方法を検討する必要がある。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり